

「言語を通して文化を学び、文化を通して言語を学ぶ」



巻頭言

東 明彦*

Culture through Language, Language through Culture

大阪大学外国語学部には、25の専攻語がある。その25専攻語の研究室の紹介が本誌のコラム「海外交流」に2008年春号以降、毎号順番に掲載されてきた。そのご縁で、今回、外国語学部の私が巻頭言を執筆することになった。

外国語学部は、1921年設立の「大阪外国語学校」および1949年設立の「大阪外国語大学」をルーツとし、2007年10月の大学統合により、大阪大学のいちばん新しい学部となった。

外国語学部には、海外からの来客が多い。来客には通例学部の紹介を行うが、その際、学部の歴史を語るとともに、「外国語学部が、言語を学ぶだけの学部ではない」ことを強調している。学部のカリキュラム構成や教育理念（「本学部は、外国の言語及びそれを基底とする文化一般について理論及び実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識及び高い教養を与え、言語を通じて外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを目的とする」）を丁寧に説明するのがいちばん良いのだが、時間に余裕がないときには、外国語学部の英語名が、School of Foreign Studiesであり、School of Foreign Languagesではないこと、そして学部のモットーが Culture through Language, Language through Cultureであることを伝えるとおおむね理解してもらえる。

最近、「グローバル人材の育成」が強調されているが、優れた言語能力と異文化理解能力、さらに主体性、柔軟性、使命感を併せ持ったグローバル人材の育成は、外国語学部が一貫して追求してきたことである。この面で、総合大学にある外国語学部という新しい環境は、興味深い成果を生み出しつつある。

その一つが「カップリング・インターンシップ・プログラム」である。これは、接合科学研究所、工学研究科、言語文化研究科と共同で、現地大学、日系企業と協力しながら、2013年度からスタートした「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」の中のプログラムで、言語や文化の知識を有し、現地で主体的に活動できる実践型のグローバル人材の育成を目指している。カップリングという名称を冠しているのは、文系＝外国語学部学生2名と理系＝工学研究科学生2名、計4名の日本人学生を現地に送り、現地大学の文系、理系の学生、計4名と併せて合計8名のグループを組織し、アジア各国に進出した日系企業における短期インターンシップ・プログラムおよび異文化理解研修を実施しているからである。

初年度は、インドネシア、ベトナム、タイの3カ国で実施したが、2年目は、上記3カ国に加え、マレーシアやカタール、インド、フィリピンの計7カ国で実施した。すでに参加者や関係者から、異文化理解に資するユニークなプログラムとして一定の評価を得ている。3年目に当たる2015年度には、ミャンマーやトルコ等でも実施する予定である。

このような取り組みが、大学のグローバル人材の養成に貢献し、さらに外国語学部が育ててきた教育理念にある「外国に関する深い理解を有する有為な人材」の育成に寄与することを強く願っている。



* Akihiko AZUMA

1953年6月生
大阪外国語大学大学院外国語学研究科
修士課程修了（1981年）
現在、大阪大学外国語学部 学部長
文学修士 ブラジル史
TEL：072-730-5470
FAX：072-730-5470
E-mail：azumaa@lang.osaka-u.ac.jp